

1 調査名称：（うるま市）総合都市交通体系調査

2 調査主体：うるま市

3 調査圏域：市全域

4 調査期間：平成29年度

5 調査概要：

交通基本計画を策定するにあたり、基礎調査を実施した。

- ・ 上位計画、関連計画の整理
- ・ 地域特性、交通特性の把握
- ・ 現況交通量調査、データ分析
- ・ 市民ニーズの把握（市民アンケートを実施）
- ・ 交通課題、問題点の抽出
- ・ 基本方針、将来目標の設定
- ・ 協議会の設置

6 その他特筆事項：

現況調査において、商用車プローブデータを用いて分析を行った。

○目的：本市の産業集積地である中城湾港新港地区（工業地域）の物流に着目し、交通課題を整理するため。

○データの種類：商用車プローブデータ（貨物商用車に掲載されているデジタルタコグラフを利用し運送事業者へ提供する運行支援サービスを通じて車両挙動情報をデータベース化したもの）

○分析方法：商用車の経路分析、高速道路（IC）利用状況を分析した。

## I 調査概要

1 調査名称：（うるま市）総合都市交通体系調査  
[うるま市交通基本計画策定基礎調査]

## 2 報告書目次

### 【本編】

#### 第1章 業務概要

- 1.1 業務概要
  - 1.1.1 業務の目的
  - 1.1.2 業務対象地域
- 1.2 実施方針
  - 1.2.1 業務フロー
  - 1.2.2 業務の実施方針
- 1.3 業務組織計画

#### 第2章 上位計画・関連計画の整理

- 2.1 上位計画
  - 2.1.1 国
  - 2.1.2 沖縄県
  - 2.1.3 うるま市
- 2.2 関連計画
  - 2.2.1 うるま市
  - 2.2.2 その他市町村

#### 第3章 うるま市の地域特性・交通特性の把握

- 3.1 地域特性
- 3.2 交通特性

#### 第4章 現況交通量調査

- 4.1 現況交通量調査
  - 4.1.1 調査概要
  - 4.1.2 調査内容
  - 4.1.3 調査結果
- 4.2 プローブデータ分析
  - 4.2.1 分析方針
  - 4.2.2 基礎集計結果
  - 4.2.3 分析結果

#### 第5章 市民ニーズの把握

- 5.1 アンケート調査票の作成
- 5.2 アンケート調査結果

## 第6章 交通課題の抽出及び問題点の抽出

- 6.1 ヒアリング調査
  - 6.1.1 庁内ヒアリング結果
  - 6.1.2 企業ヒアリング結果
- 6.2 交通問題の整理
- 6.3 交通課題の抽出

## 第7章 基本方針及び将来目標の設定

- 7.1 将来目標の設定
- 7.2 基本方針の設定

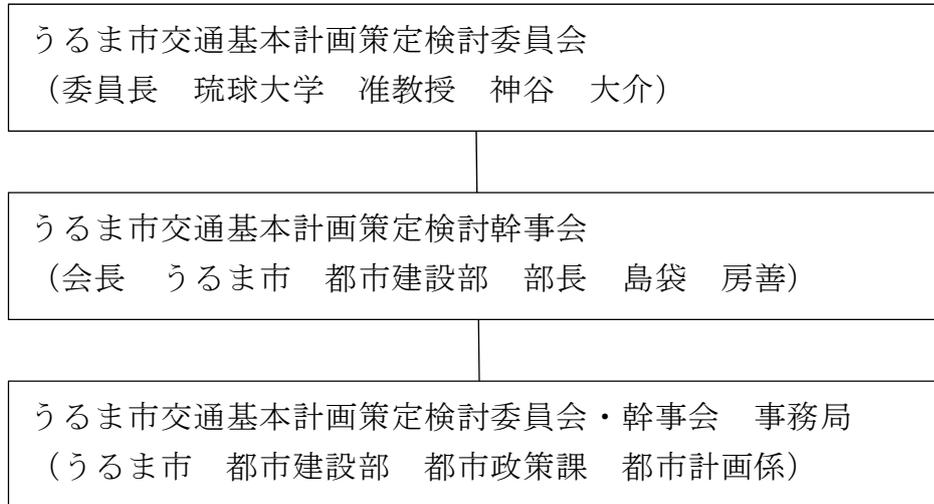
## 第8章 協議会の設置と運営支援

- 8.1 幹事会の運営支援
  - 8.1.1 資料作成
  - 8.1.2 議事概要
- 8.2 委員会の運営支援
  - 8.2.1 資料作成
  - 8.2.2 うるま市交通基本計画（概要版）作成

### **【資料編】**

- 資料.1 交通量調査結果
- 資料.2 第1回策定幹事会資料
- 資料.3 第1回策定委員会資料
- 資料.4 うるま市交通基本計画（概要版）

## 3 調査体制



## 4 委員会名簿等：

## 委員会名簿

	所 属	役職等	氏 名
委員長	琉球大学 工学部	准教授	神谷 大介
委員	沖縄総合事務局 開発建設部 建設産業・地方整備課	課長	豊見山 秀樹
委員	沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課	課長	大城 照彦
委員	沖縄総合事務局 北部国道事務所	副所長	渡久山 雄一
委員	沖縄県 企画部 交通政策課	課長	長濱 為一
委員	沖縄県 土木建築部 都市計画・モノレール課	課長	照屋 寛志
委員	沖縄県 土木建築部 道路街路課	課長	玉城 佳卓
委員	沖縄県 土木建築部 道路管理課長	課長	多和田 真忠
委員	沖縄県 うるま警察署 交通課	課長	友利 元和
委員	沖縄県 石川警察署 交通課	課長	我如古 盛明
委員	沖縄県バス協会	専務理事	慶田 佳春
委員	うるま市商工会	会長	新垣 壮大
委員	うるま市観光物産協会	副理事長	瑞慶覧 朝成
委員	うるま市自治会長連絡協議会	会長	西原 洋子

委員	うるま市 企画部	部長	天願 雅也
委員	うるま市 市民部	部長	当間 重俊
委員	うるま市 経済部	部長	佐久川 篤
副委員長	うるま市 都市建設部	部長	島袋 房善

幹事会名簿

	所 属	職 名	氏 名
会長	うるま市 都市建設部	部長	島袋 房善
副会長	うるま市 都市建設部	参事	目取真 康史
委員	うるま市 企画部 企画政策課	課長	大田 義浩
委員	うるま市 企画部 防災基地涉外課	課長	中里 和央
委員	うるま市 市民部 市民協働課	課長	登川 愛子
委員	うるま市 経済部 産業政策課	課長	金城 和明
委員	うるま市 経済部 観光振興課	課長	松岡 秀光
委員	うるま市 都市建設部 都市政策課	課長	浜田 宗賢
委員	うるま市 都市建設部 道路公園課	課長	知念 直樹
委員	うるま市 都市建設部 維持管理課	課長	仲村 光男
委員	うるま市 消防本部 警防課	課長	渡具知 政治

## II 調査成果

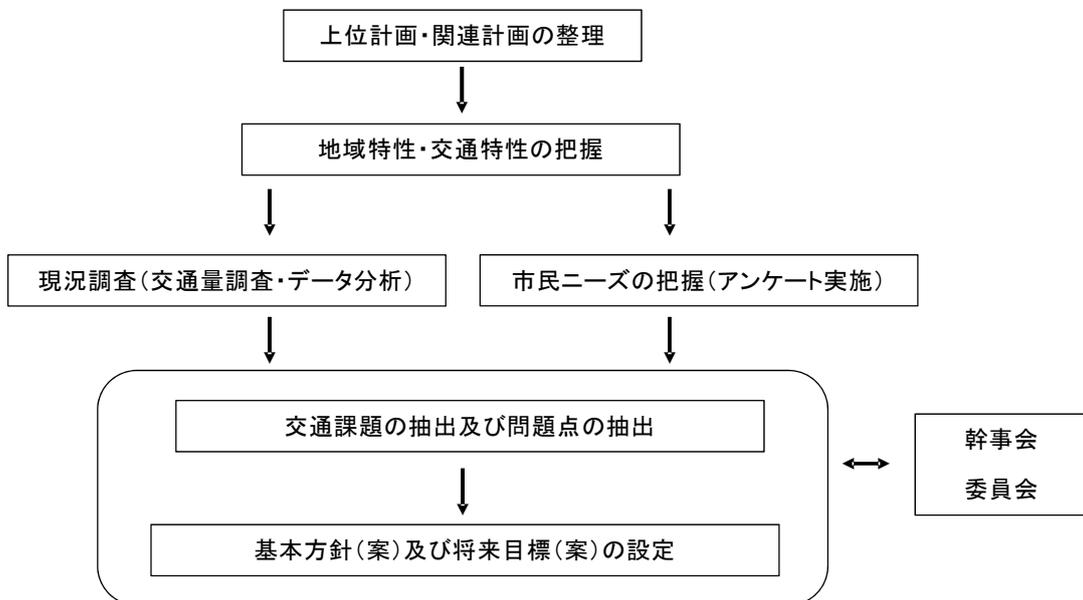
### 1 調査目的

2市2町が合併した当市は、地域拠点を結ぶ道路・公共交通ネットワークの効率的な配置が課題である。将来都市構造のあり方から目指すべき方向性や目標を策定し、総合的な交通関連施策を計画的かつ戦略的に展開する必要がある。

総合計画、都市計画マスタープランなどのまちづくり施策を踏まえ、移動円滑化、環境問題への配慮、地域特性、土地利用密度等を考慮した交通ネットワーク構築など、交通基本計画を策定するための基礎調査である。

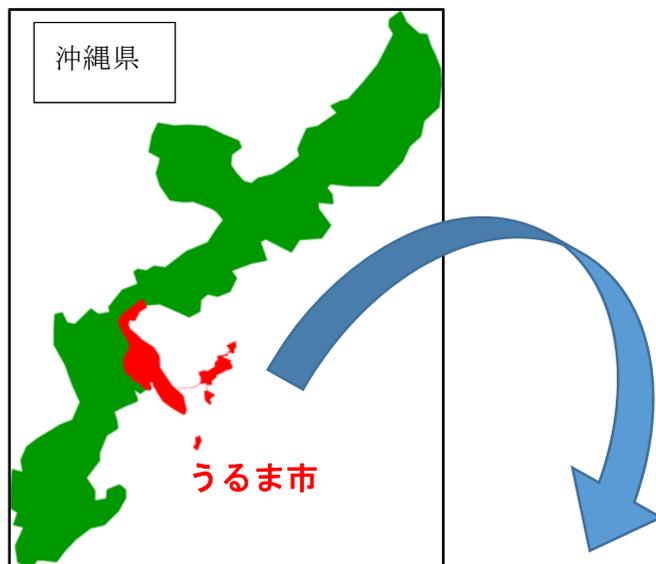
### 2 調査フロー

#### 平成29年度 うるま市交通基本計画策定基礎調査



### 3 調査圏域図

調査圏域：うるま市全域



#### 4 調査成果

### 交通課題の抽出

うるま市の現況特性と問題点を総括し、将来プロジェクト等を加味した結果、うるま市を下記の4つのエリアに分割し課題を抽出した。

- ・北部地域（北部地域）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 県北部との交通結節エリア
- ・中部地域（中南部から新港地区を除いた地域）・・・・ 中心市街地エリア
- ・東部島嶼地域（東部と島嶼地域）・・・・・・・・・・・・ 観光・産業資源エリア
- ・中城湾港新港地域（中城湾港新港地区のみ）・・・・ 立地企業集積エリア

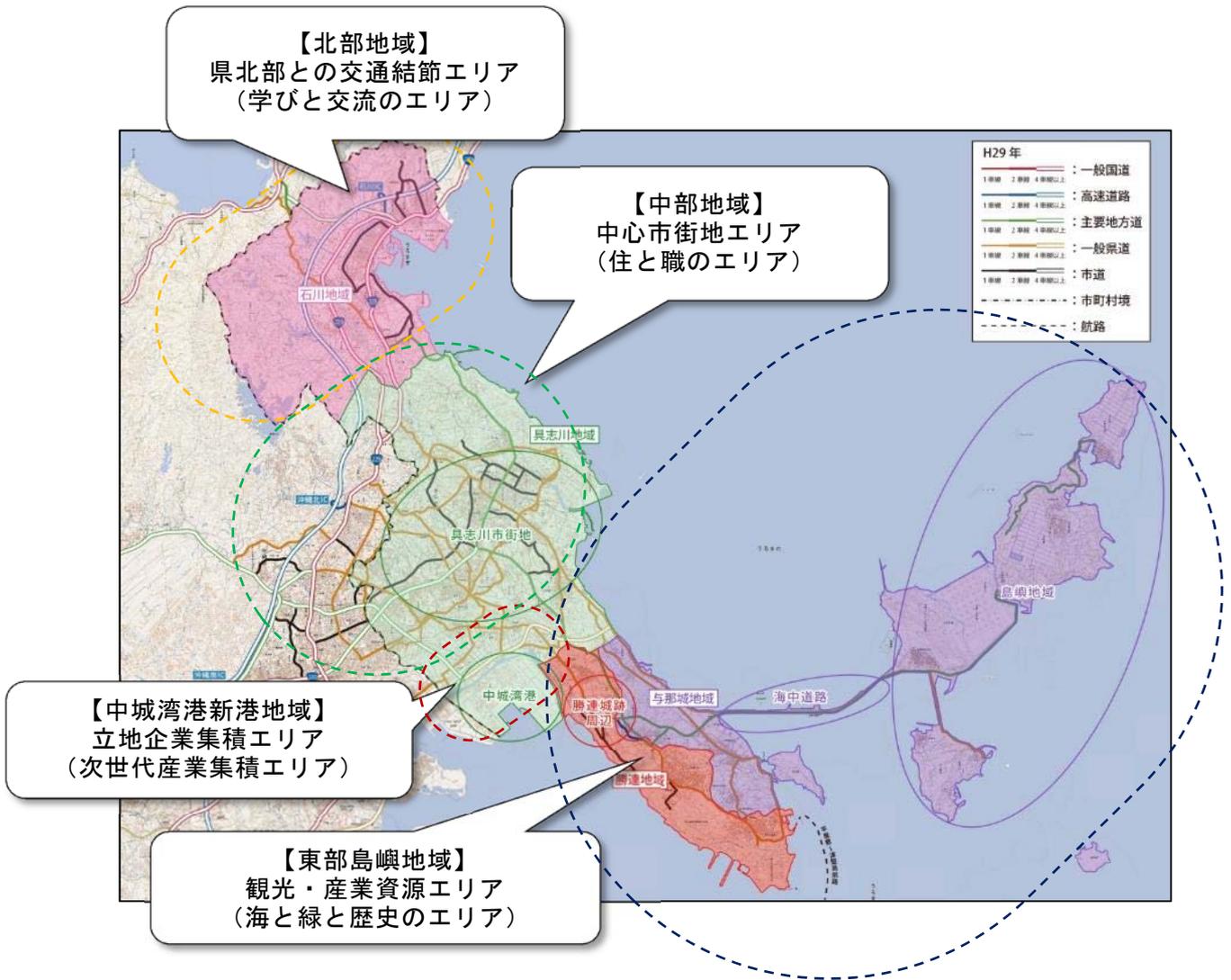


図.1 うるま市交通基本計画策定上のエリア区分

### 6.1.1 うるま市の交通における課題点の整理

交通における現況特性と課題点を基に、其々の項目別かつエリア別に課題を整理した。

#### (1) うるま市全体の課題整理

表.1 うるま市全域の交通問題に対する課題整理

項目	課題	想定される施策案
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通空白域の解消。</li> <li>バス利用者の減少対策。</li> <li>バス停までの移動の困難さの解消。</li> <li>市全体の少子高齢化が始まることを見越した公共交通施策の実施。</li> <li>鉄道基軸を見込んだ公共交通施策の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状を踏まえると、地域別の課題として捉えるべきである。</li> <li>自動運転バスの導入の検討。</li> <li>ライドシェア等、新交通サービス導入の検討。</li> <li>鉄道基軸と加えてバス等新交通サービスの構築</li> </ul>
産業・物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路交通渋滞の解消。</li> <li>モズク生産地や中城地域から各 IC までのアクセス環境（時間短縮）の向上。</li> <li>大型車混入率の抑制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道路交通渋滞は発生地点別に性質が異なるため、地点ごとに分析と検討すべきである。（交差点改良、右折レーン設置、他）</li> <li>地域別、若しくは路線毎の課題であると考ええる。</li> </ul>
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>うるま市から那覇市への転出者抑制</li> <li>自家用車による学校への送迎により学校周辺の道路混雑の解消。</li> <li>街灯設置による防犯性の向上</li> <li>救急医療施設への搬送時間の短縮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学時の便数を増やす。</li> <li>近学生割引を優遇しバス利用を促進させる。</li> <li>那覇市への転出者抑制や街灯設置による防犯性向上等、交通分野のみで解決困難な問題は、他部署との連携が必要である。</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>勝連城跡へのルート環境の改善。</li> <li>各観光名称地への走行ルートの改善</li> <li>沖縄市等との連結を強化する道路整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>案内サインの設置</li> <li>沖縄市方面と結ぶ幹線道路の整備</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急輸送道路に対する液状化の防止</li> <li>災害時に、半島からのアクセス環境（避難経路）の確保と改善。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液状化対策の実施。</li> <li>災害時における半島から避難経路の確認と、避難道路の環境改善。</li> <li>大規模災害を想定した避難訓練の実施と、避難時の課題の捻出と計画見直し。</li> </ul>



#### 基本計画策定上の留意点

- 各エリア（各地点）の課題として捉え、エリア毎に検討・分析し、その方針を決めるべきであると考ええる。
- バス利用に関しては、利用者が非常に少ないため、バス利用を主とした公共交通を促進し続けるか否か、根本的な方針の明確化が必要である。
- 転出抑制や防犯性向上等の課題は、交通の領域を超えた課題であると判断できる。
- 液状化対策等は大規模工事に発展する事案であるため、予算確保等から対処すべき課題である。

(2) 北部地域の課題整理

表.2 うるま市北部地域の交通問題に対する課題整理

項目	課題	想定される施策案
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>土地区画整理事業施行中の石川西地区、国道 329 号から離れた石川前原等に公共交通空白地帯が存在している。</li> <li>石川高校等への通学バス便の利便性向上。</li> <li>鉄道基軸を見込んだ公共交通施策の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通空白地帯の解消。</li> <li>通学者を優遇したバス利用の促進策（定期代の補助）</li> <li>石川 IC と公共交通空白地帯を一体としたデマンド型交通の導入検討。</li> <li>自動運転バスの導入の検討。</li> <li>ライドシェア等、新交通サービス導入の検討。</li> <li>鉄道基軸と加えてバス等新交通サービスの構築</li> </ul>
産業・物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>混雑度が高い道路区域の交雑解消</li> <li>道路交通混雑の解消</li> <li>火力発電所における事故や災害時の交通混雑の解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通混雑の解消は、発生地点別に分析と検討すべきである。（交差点改良、右折レーン設置、他）</li> <li>発電所周辺の避難経路計画</li> </ul>
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>設立が見込まれる大学院大学周辺の道路交通混雑等の解消</li> <li>救急医療施設（県立中部病院）への道路走行環境の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院大学周辺の交通需要の将来予測と混雑解消対策</li> <li>北部から救急医療施設（県立中部病院）までの主要道路の整備</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>石川多目的ドームにおけるイベント時の周辺道路交通混雑の解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベント時に交通需要の実態把握と将来予測と混雑解消対策</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急輸送道路（国道 329 号）の液状化の防止</li> <li>沿岸部の浸水防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液状化防止対策工事</li> <li>沿岸部の防波堤設置等の浸水対策</li> </ul>



**基本計画策定上の留意点**

- 通学者のバスの利用促進を進めるのか、それとも別の方法で自家用車での送迎を抑制するのか方針を固める必要がある。
- 公共交通空白地帯と石川 IC 周辺を一体としたエリアのデマンド型交通の導入が検討されているため、その計画の動向に注意が必要である。
- 沖縄科学大学院大学の構想を踏まえつつ、その周辺の交通整備を実施すべきである。
- 救急医療施設（県立中部病院）周辺は、住宅密集地域であるため、道路拡幅は困難であると予想される。しかし、人命にかかわる事案だけに早急に対処すべき課題である。
- 石川多目的ドームは、北部地域におけるもっとも大きな観光拠点であるため、その集客客を向上するような交通施策が必要である。
- 液状化対策や浸水対策は、大規模工事に発展する事案であるため、予算確保等から対処すべき課題である。

(3) 中部地域の課題整理（中南部地域から中城湾港新港地区を除いた地域）

表.3 うるま市中部地域の交通問題に対する課題整理

項目	課題	想定される施策案
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昆布、天願、兼箇段などの公共交通空白地帯が存在している。</li> <li>・当該地域に分布する市内の拠点施設を連結するコミュニティバスの導入が検討されている。</li> <li>・鉄道基軸を見込んだ公共交通施策の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通空白地帯の解消。</li> <li>・通学者を優遇したバス利用の促進策（定期代の補助）</li> <li>・利便性の高いコミュニティバスの導入検討</li> <li>・自動運転バスの導入の検討。</li> <li>・ライドシェア等、新交通サービス導入の検討。</li> <li>・鉄道基軸と加えてバス等新交通サービスの構築</li> </ul>
産業・物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混雑度が高い道路区域の交雑解消</li> <li>・道路交通混雑の解消</li> <li>・前原に建設予定の農水産業戦略拠点施設周辺の道路混雑解消。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通混雑の解消は、発生地点別に分析と検討すべきである。（交差点改良、右折レーン設置、他）</li> <li>・前原周辺の商業施設利用交通を勘案した交通需要分析とその対策</li> </ul>
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設立が見込まれる大学院大学周辺の道路交通混雑等の解消</li> <li>・救急医療施設（県立中部病院）周辺道路の走行環境の改善</li> <li>・赤道小学校東側市道の交通量抑制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院大学周辺の交通需要の将来予測と混雑解消対策</li> <li>・救急医療施設（県立中部病院）周辺道路の拡幅工事</li> <li>・赤道小学校東側市道周辺道路の交通需要分析と原因究明と対策の実施</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安慶名闘牛場におけるイベント時の周辺道路交通混雑の解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント時に交通需要の実態把握と将来予測と混雑解消対策</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急輸送道路（国道 329 号）の液状化の防止</li> <li>・緊急輸送道路（県道 16 号、県道 75 号）の土砂災害発生の防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液状化防止対策工事</li> <li>・土砂発生防止対策工事</li> </ul>



**基本計画策定上の留意点**

- ・通学者のバスの利用促進を進めるのか、それとも別の方法で自家用車での送迎を抑制するのか方針を固める必要がある。
- ・コミュニティバスに関しては、利便性の高いサービスを提供することが不可欠であるため、聊か困難な課題であると考えられる。
- ・前原に建設予定の農水産業戦略拠点施設周辺の道路混雑に関しては、周辺の商業施設に加えて、中城湾港新港地区の交通需要も加味し、面的に検討すべき課題であると考えられる。
- ・救急医療施設（県立中部病院）周辺は、住宅密集地域であるため、道路拡幅は困難であると予想される。しかし、人命にかかわる事案だけに早急に対処すべき課題である。
- ・安慶名闘牛場は、住宅密集地であり周辺道路も十分な道路空間でないため、別地域に駐車を促しマイクロバスなどでピストン輸送する等、ソフト対策が必須であると考えられる。
- ・液状化対策や浸水対策、土砂災害防止対策等は大規模工事に発展する事案であるため、予算確保等から対処すべき課題である。

(4) 東部島嶼地域の課題整理

表. 4 うるま市東部島嶼地域の交通問題に対する課題整理

項目	課題	想定される施策案
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス系統の増加と便数の増加によるバスの利便性向上</li> <li>・高齢者や障害者など、移動困難者に対する移動手段の確保</li> <li>・津堅島内の陸上交通の改善</li> <li>・本土と島々を結ぶ航路の充実化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学者や高齢者、障害者を優遇したバス利用や航路の促進策（定期代や回数券等の補助）</li> <li>・自動運転バスの導入の検討。</li> <li>・ライドシェア等、新交通サービス導入の検討。</li> </ul>
産業・物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モズク製品等、農水産物の搬送を下支えする道路交通網（半島や島嶼部～那覇方面）の整備や走行環境改善</li> <li>・燃料供給の搬送を支える海中道路等の道路走行環境の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半島や島嶼部から那覇方面に通る道路の混雑の解消（交差点改良、他）</li> <li>・沖縄北 IC や沖縄南 IC までの走行時間短縮の実施（幹線道路の設置）</li> <li>・海中道路等の島嶼部道路の環境改善（道路整備の充実）</li> </ul>
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街灯の設置による道路環境の改善</li> <li>・救急輸送搬送時間の短縮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街灯設置や街灯機器の更新</li> <li>・救急輸送搬送時のルートの確保（幹線道路の設置）</li> <li>・半島や島々と救急医療施設を結ぶドクターヘリシステムの構築とヘリポートの整備</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「勝連城跡」への誘導策</li> <li>・はやは館、ロードパークの魅力創出と機能強化</li> <li>・観光名所を結ぶ道路空間と走行環境の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝連城跡への案内標識の設置</li> <li>・観光促進による各観光名所地を結ぶ幹線道路の整備</li> <li>・サイクリングに適した自転車道路環境等の整備</li> <li>・景観に配慮した道路整備</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急輸送道路（県道 16 号、県道 33 号、県道 37 号）の液状化防止</li> <li>・緊急輸送道路（県道 33 号、県道 37 号）の浸水防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液状化防止対策工事</li> <li>・沿岸部の防波堤設置等の浸水対策</li> </ul>



**基本計画策定上の留意点**

- ・人口減少と少子高齢化が進む当エリアに対し、人口減少を食い止め人を呼び込むような策を講じるのか否か、抜本的な方針の明確化が必要である。
- ・バス利用に関しては、利用者が非常に少ないため、バス利用を主とした公共交通を促進し続けるか否か、根本的な方針の明確化が必要である。
- ・「勝連城跡」への案内看板設置などは比較的容易に対応可能な作であると考えられる。
- ・半島には幹線道路が無いことが大きな課題であり、幹線道路が建設されれば、あらゆる問題の解決に寄与すると考えられる。（救急搬送時間の短縮）
- ・液状化対策や浸水対策、土砂災害防止対策等は大規模工事に発展する事案であるため、予算確保等から対処すべき課題である。
- ・燃料供給の搬送を支える海中道路等の走行性確保は、防災対策でも人命に次いで優先すべき課題であると考えられる。

(5) 中城湾港新港地域の課題整理

表.5 うるま市中城湾港新港地域の交通問題に対する課題整理

項目	課題	想定される施策案
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通空白地区の解消</li> <li>通勤の利便性向上の寄与する公共交通サービス施策の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存バス路線の当該地域まで延伸させる。</li> <li>自動運転バスの導入の検討。</li> <li>ライドシェア等、新交通サービス導入の検討。</li> </ul>
産業・物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>混雑度の高い道路区間の混雑解消</li> <li>大型車混入状況の抑制</li> <li>通勤時を始めとした道路混雑の解消</li> <li>中城湾港新港地区から沖縄北 IC や沖縄南 IC へのアクセス環境の向上</li> <li>当該地域から那覇方面への物流経路の走行性改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験的な自動運転バス等の導入による通勤時の混雑解消</li> <li>道路混雑解消は、渋滞発生地点別に分析と検討すべきである。(交差点改良、右折レーン設置、他)</li> <li>那覇方面の物流経路の把握と、その経路に存在する課題の分析とそれに適した対策の実施</li> </ul>
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>街灯の設置による道路環境の改善</li> <li>道路の除草による道路環境の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>街灯の設置</li> <li>道路除草の管理方法検討</li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>中城湾港に立ち寄るクルーズ船に対する対応と、その他地域への移動の円滑化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ船客の旅行行程把握と、そのルートの</li> <li>クルーズ船対応巡回バス等の構築</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時の当該エリアの避難経路の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難経路並びに避難方法の確立</li> <li>大規模災害を想定した避難訓練の実施と、避難時の課題の捻出と計画見直し。</li> </ul>



**基本計画策定上の留意点**

- 工場地域だけに、他の工場地域に対する優位性を確保するため、交通利便性向上を優先的に検討するべきであると考えます。
- 交通利便性は、大きく下記に2点に絞られると判断できる。  
①通勤時の道路混雑解消、②那覇方面へのアクセス環境の改善
- 上記①は、効果的な公共交通施策が実現されれば、通勤時等の道路混雑は解消されることが考えられる。
- 上記②は、各 IC までの一般道路の走行環境を改善することと、各 IC 周辺の混雑を解消することであると考えられる。
- 街灯設置と道路除草は、比較的实施容易な事案であるように推測されるが、場合によっては交通の領域を超えた課題であると言える。
- 当該地域の災害時の避難経路やその方法については、立地企業と共に作成すべき課題であると考えます。

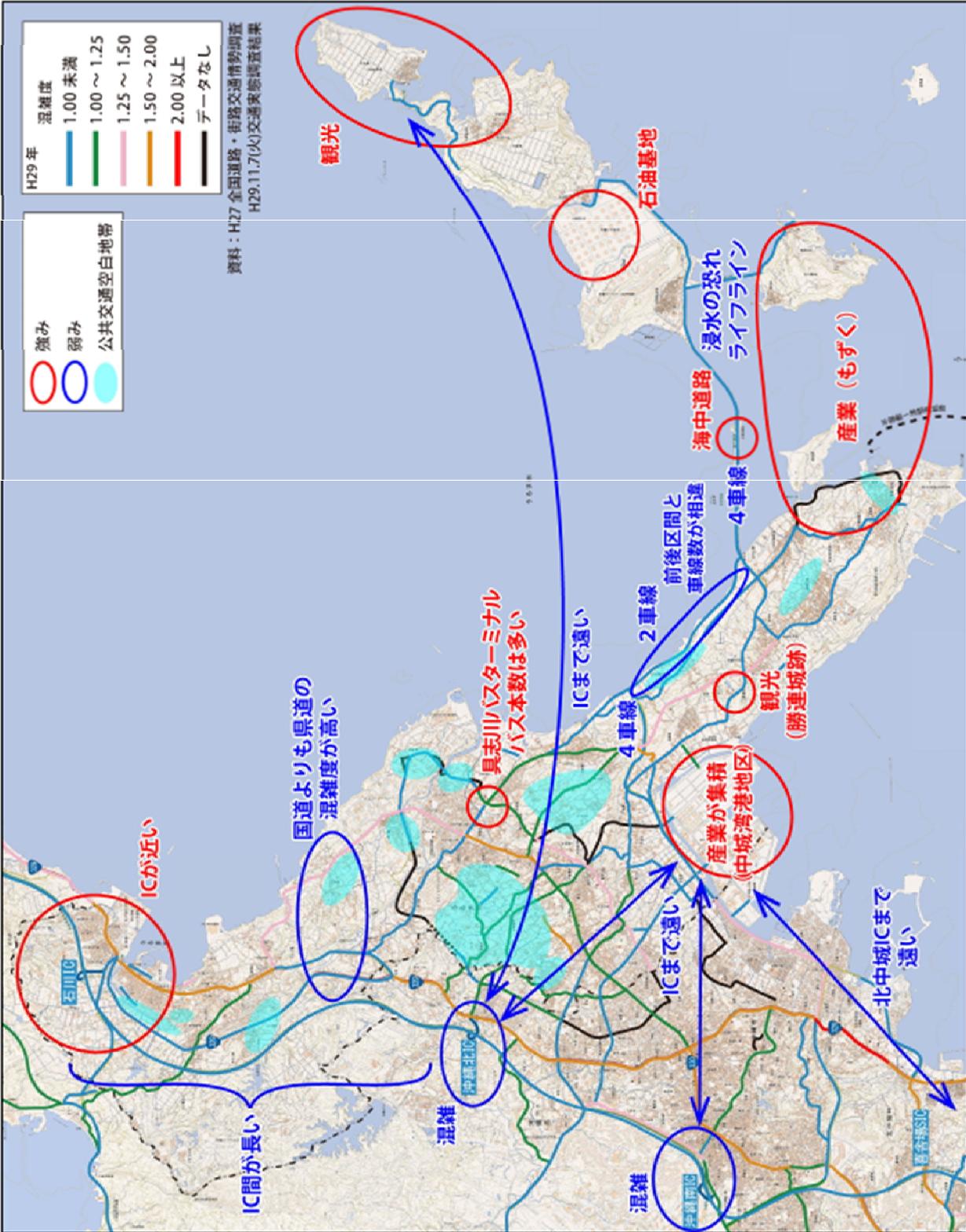


図 7.14 うるま市の交通の強み・弱み

## プローブデータ分析（概要）

### 分析方針

商用車プローブデータを用いて、基礎集計を行った上で走行経路等の分析を行った。

#### (1) 分析の対象

商用車プローブデータとは、貨物商用車両に搭載されているデジタルタコグラフを利用し運送事業者へ提供する運行支援サービスを通じて、1秒毎に位置・速度等の車両挙動情報を収集しデータベース化されたものである。

今回の分析の対象とするデータは、下図の5メッシュを通行した車両である。

データの期間は平成29年11月の1か月間とした。サンプル数は約15,000トリップである。



図 分析対象メッシュ

## (2) 分析内容

基礎集計及び分析内容は以下のとおりである。

### ●基礎集計

- ・市町村間流動
- ・ゾーン別発生集中交通量
- ・区間別交通量（全日、平日、休日）
- ・区間別速度（平日朝夕ピーク、休日夕ピーク）

### ●分析

- ・IC 利用状況  
IC 別の利用台数、発着地（北中城 IC～石川 IC）、IC アクセス時間
- ・経路分析  
中城湾港発着車両の利用 IC、行き先、所要時間  
島嶼部発着車両の利用 IC、行き先  
勝連漁協（もずく）関連車両の利用 IC、行き先  
石川地区関連車両の利用 IC、行き先、所要時間  
那覇港関連車両の利用 IC、行き先  
那覇空港関連車両の利用 IC、行き先
- ・沖縄北 IC 出入口渋滞の状況

## (3) まとめ

分析結果をまとめて整理した。それを以下に示す。

### 1) 交通状況

- ・うるま市発のトリップ数を市町村別に見ると、沖縄市が最も多く、続いて恩納村、浦添市が多い。浦添市が多いのは、浦添市西洲にある卸商業団地との関連があるからだと推測される。
- ・ゾーン別の車両の発着回数を集計すると、工業地域がある沖縄市 5 区やうるま市 4 区を中心に発着回数が多い。
- ・交通量は、国道 329 号や沖縄環状線、宜野湾北中城線等で多い。特に宜野湾北中城線は、一般道利用と高速道路利用が混在するため非常に多い傾向にある。
- ・速度に着目すると、中城湾港や市役所周辺等、通勤者による混雑が発生していると考えられるが、平日朝ピークよりも平日夕ピークで速度が低い路線が多い。帰宅者やビジネスでの移動等の交通が錯綜していると考えられる。休日は平日よりも速度が速い傾向にある。

## 2) ICの利用について

- ・ICアクセス時間は、石川地区は石川ICがあるため5～10分程度と短い、中城湾港地区からは20～30分程度と比較的時間がかかる。
- ・利用ICは、中城湾港発着車両は北中城ICの利用が最も多く、次に沖縄北IC利用が多い。石川地区発着車両は、石川ICの利用が最も多い。

## 3) 走行経路について

- ・中城湾港発着車両の出発地は広範囲に広がっているが、浦添市西洲を含むゾーンや豊見城市豊崎を含むゾーンが最も多い。西洲には卸商業団地、豊崎には大型車商業施設や多くの企業が立地しており、中城湾港にも拠点を持つ企業や取引のある企業が多いと考えられる。
- ・高速道路を利用した中城湾港発着車両は、北は名護から南は糸満市まで利用している。
- ・石川地区発着車両の行先は広範囲に広がっているが、石川地区が行先である車両が最も多い。中城湾港発着車両よりも範囲は狭い傾向にある。
- ・中城湾港の走行ルートに着目すると、那覇港や浦添市方面だと、一般道利用でも高速道路利用でも所要時間はほとんど変わらない傾向にある。豊見城方面だと高速利用距離が長いこともあり、高速道路利用の方が所要時間は短くなる傾向にある。
- ・島嶼部北部発着車両は、うるま市内を中心に、北谷町や那覇空港方面に移動している。観光に係る車両ではないかと推測される。例えば、修学旅行生のスーツケースを運搬するトラック等が考えられる。

## 4) 沖縄北ICについて

- ・平日夕ピーク（16～19時）の沖縄IC周辺の速度を見ると、IC出口、特に那覇方面のオフランプから出口にかけて速度10km/h未満となり非常に遅い。所要時間で見ると、短い区間でありながら、IC出口通過に5分以上を要する車両も存在。